

第5学年C組 社会科学学習指導案

授 業 者 鈴木 聡
研究協力者 外池 智, 加納 隆徳

1 単元名 発見！日本の気候の特色

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

4年生で学習した「発見！秋田県内の地域の特色～自然環境編～」では、県内の特色ある地域の位置や自然環境、産業の歴史的背景、人々の協力関係に着目し、地図や統計などの各種資料を活用して調べた。県内の特色ある地域では、人々が協力しながら自然環境を産業の発展やまちづくりに生かしていることを考えるために、一つの資料から読み取ったことだけを基に結論付けるのではなく、地図と写真の比較、地図と統計の比較、文字資料と統計の比較など、複数の資料を関連付けて読み取り、結び付ける経験を積み重ねることにより、社会的事象の特色や事象間の相互の関連について考える力が高まってきている。

一方で、資料から分布、量やその変化などの全体的な傾向を読み取ったり、目的に応じた情報を選んで読み取ったりする力には個人差が見られる。また、社会的事象の特色や事象間の関連について、複数の資料から捉えた事実を比較・関連付けして考えたり説明したりすることにおいても同様である。

(2) 単元について

本単元は、日本各地の気温・降水量の違いや変化などに着目し、地図や統計などの各種資料を活用して調べ、地域によって気候が異なることを理解することをねらいとしている。日本各地の気候を特色付ける現象として梅雨、台風、季節風を取り上げ、それらが人々のくらしに大きな影響を与えていることを考える。

また、地域による気候の違いを位置や地形、梅雨・台風・季節風の影響などと関連付けて考え、説明することができるように、北海道・沖縄県・太平洋側・日本海側・中央高地・瀬戸内海の六つの地域の気候を取り上げる。一つの資料から読み取ったことだけを基に結論付けるのではなく、統計同士の比較、地図と統計の比較など、複数の資料を関連付けて読み取り、結び付ける必要が生じる。単元の中で日本の気候の特色を捉えるために、複数の資料を関連付けた読み取りを繰り返すことを通して、複数の視点を比較・関連付け・総合して考える力を高めることが期待できる。

これらを踏まえ、我が国の国土の位置、地形や気候の概要、気候条件から見た特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを理解するという資質・能力を高めることを目指す。日本の気候には、緯度や地形、梅雨・台風・季節風などの影響により地域差があるという概念的な知識を獲得していく子どもの姿を期待して、本単元を設定した。

(3) 指導について

研究の重点(1)との関連から、学習問題に対する自分の考えが明確になっていくことを自覚できるように、1単位時間ごとに白地図に気候を区分する活動を位置付ける。自分なりの気候区分の仕方がどのように変容していったのかを省察することは、地域による気候の違いを捉えるための視点や考え方について見通しをもったり確信を得たりすることにつながると考える。単元終末では、日本の気候が地域によって異なる理由について、自分の考えを再構築しながら、緯度や地形、季節風の影響などを総合して説明することができるように、「日本気候特色マップ」に地域による気候の違いを地図と文章でまとめる活動を設定する。

研究の重点(2)との関連から、本単元で育みたい資質・能力を高めるために、地理的位置や地形、気候などに着目し、地理的環境の特色について複数の視点を比較・関連付け・総合して考えるという「見方・考え方」を働かせた学習活動を単元を通して位置付ける。地域によって気候が違う理由を緯度や地形、季節風の影響を根拠にして考えることができるように、気温や降水量の違いには何が影響しているのか、更に他の地域との相違点は何か問いかけるなど、一つの資料だけではなく、複数の資料を比較・関連付けして考えることを促すための発問を工夫する。そのことにより、複数の資料から捉えた事実を比較・関連付けして考えたり説明したりする力を高めたい。また、本単元における社会的事象の認識の段階を次のように整理する。①事実認識の段階：季節風などが人々のくらしに与える影響や各地域の気温や降水量を理解する段階、②関係認識の段階：地域による気温や降水量の違いを緯度や地形、季節風の影響などと関連付けて考える段階、③意味認識の段階：日本の気候の特色を緯度や地形、季節風の影響などの視点を総合して考える段階とし、それらを単元において、①→②(→①→②)→③と意図的に配置する。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 日本各地の気候には、四季の変化が見られること、緯度や地形、季節風の影響などにより地域によって違いがあることを理解することができる。また、日本の気候の特色について地図や統計などの各種資料を活用して調べ、白地図などにまとめることができる。〈I-12〉

(2) 日本各地の気候の特色である四季の変化、地域や時期による気候の違いについて、緯度や地形、季節風の影響などを関連付けて考え、説明することができる。〈I-12〉

(3) 日本各地の気候の特色に関心を持ち、地図や統計などの各種資料を活用して調べたり、日本各地の気候の特色と人々のくらしの関わりを考えたりし、追究しようとしている。

4 単元の構想（総時数 7 時間）※「見方・考え方」を働かせた学習活動

発見！日本の地形の特色

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
1・2	<p>(1) 日本には気候の異なる地域があることを確かめ、地域による気候の違いを調べていくための学習計画を立てる。</p> <p>・北海道、沖縄県、日本海側、太平洋側などで気温や雨量、積雪量が違うのではないかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域によって気候が異なることに気付くことができるように、四つの地域の3月の写真や桜が開花する時期の分布図を提示する。 緯度や地形、自然現象の影響が気候と関係しているという見方を引き出すために、気候が違っていると予想される地域とその理由を出し合う場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の気候の様子に関心をもち、地域による気候の違いについて見通しをもって調べようとしている。〈ア-6・10〉
<p>学習問題</p> <p>日本の気候は、地域によってどのようにちがうのだろうか。</p>			
3	<p>(2) 梅雨や台風、季節風が人々の暮らしに与える影響について調べる。</p> <p>・梅雨や台風、季節風は人々の暮らしに大きな影響を与えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨や台風、季節風が人々の暮らしに与える影響について考えることができるように、それらの現象が及ぼすよい影響と悪い影響の二つの視点を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨や台風、季節風が、人々の暮らしに大きな影響を与えていることを理解している。〈イ-12〉
4	<p>(3) 北海道と沖縄県の気候が違う理由を考える。</p> <p>・北海道と沖縄県の気候の違いには、緯度や梅雨・台風の影響が関係している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 北海道と沖縄県の気候が違う理由について、資料を根拠に話し合うことができるように、二つの地域の気候と緯度や梅雨・台風の影響を関連付けた考えを価値付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から気候の情報を読み取り、北海道と沖縄県の違いについて緯度や梅雨や台風の影響と関連付けて説明している。〈イ-12〉
5本時	<p>(4) 太平洋側と日本海側の気候が違う理由を考える。</p> <p>・気候の違いには、緯度だけでなく、山地の広がりや季節風の影響が関係している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 太平洋側と日本海側の気候が違う理由を地形や季節風の影響を根拠にしなが話し合うことができるように、季節による降水量の違いが大きいことに着目した発言を取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から気候の情報を読み取り、太平洋側と日本海側の違いについて地形・季節風の影響と関連付けて説明している。〈イ-12〉
6	<p>(5) 中央高地や瀬戸内海の気候と他の地域の気候との違いを考える。</p> <p>・気温の違いには緯度だけでなく、土地の高さが関係している。降水量の違いには山地など地形が関係している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中央高地の気温や瀬戸内海の降水量が他の地域と違う理由を考えることができるように、これまで取り上げた地域との地形の共通点や相違点を問う。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から気候の情報を読み取り、中央高地と瀬戸内海の気候について地形と関連付けて説明している。〈イ-12〉
7	<p>(6) 気候の違いを基に日本を区分し、白地図に表現する。</p> <p>・日本の気候は、緯度や地形、季節風の影響などが地域によって違うから、いくつかの地域に分けられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本の気候が地域によって異なる理由について、自分の考えを再構築しながら、緯度や地形、季節風の影響などを総合して地域区分したり、説明したりする活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域による気候の違いを基に日本を区分し、「日本気候特色マップ」に適切に表現している。〈イ-12〉

◎本単元で育む主な資質・能力
我が国の国土の位置、地形や気候の概要、気候条件から見た特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを理解する。(イ-12)

○本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
地理的位置や地形、気候などに着目し、地理的環境の特色について複数の視点を比較・関連付け・総合して考える。

発見！あたたかい土地の暮らしー沖縄県ー

5 本時の実際 (5 / 7)

(1) ねらい 日本海側と太平洋側の気候について気温や降水量に着目して調べ、二つの地域の気候が違う理由を説明することができる。 (I-12)

(2) 展開 ○省察を通して、自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
5分	<p>① 前時の学習をふり返し、本時の学習問題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越市といわき市の緯度はほぼ同じなのに、雨が降る時期が大きく違うのはなぜだろう。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学習問題 緯度がほぼ同じなのに、なぜ上越市といわき市の気候には違いがあるのだろうか。</p>	<p>○見通しをもって太平洋側と日本海側の気候について調べることができるように、北海道と南西諸島の気候の学習を想起する場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習問題を見いだすことができるように、上越市といわき市の気温と降水量のグラフを提示し、大きな違いは何か問う。さらに、前時の学習との相違点を問うことで、既習の視点だけでは不十分であるという見方を引き出す。
10分	<p>② 上越市といわき市の1年間の気温と降水量について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越市は1月・11月・12月に雨が降る。いわき市は9月・11月に降る。 ・上越市もいわき市も気温の変化は似ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市では冬に降水量が多く、いわき市では夏や秋に多いという年間の降水量の傾向に気付くことができるように、降水量の多い月や降水量がどのように変化しているか資料を読み取るための視点を確認する。 ・上越市といわき市の気温の変化にあまり違いがないことに気付くことができるように、二つの地域の最も気温の高い月と最も低い月に着目させる。
17分	<p>③ 上越市といわき市の年間の降水量の変化に違いがある理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越市は日本海側、いわき市は太平洋側にあり、二つの市の間に越後山脈が連なっている。 ・季節風は夏には太平洋側から吹き、冬は日本海側から吹く。 ・二つの地域の降水量の変化が違うことは、地形・季節風の吹く季節の違いに関係があると思う。 ・他の日本海側や太平洋側の地域の降水量を調べると、より確かだと言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市といわき市の年間の降水量の変化に違いがある理由として地形や季節風の影響を根拠にしながらかえることができるように、これまでの学習で用いた地形図や季節風の資料を掲示したり、どの資料と結び付けることができるか問いかけたりする。 ○降水量が上越市では冬に多く、いわき市では夏や秋に多いことを、地形・季節風の影響の違いと関連付けて考えることができるように、グループや全体で上越市といわき市の相違点を話し合う活動を取り入れる。また、上越市といわき市の季節による降水量の変化は、他の日本海側や太平洋側の地域にも当てはまるのか、それをどのように確かめたらよいか問う。
3分	<p>④ 上越市といわき市の気候の特色は、他の太平洋側や日本海側の地域にも当てはまるか確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本海側と太平洋側の気候の違いを確かめることができるように、ほぼ同緯度に位置する秋田市と宮古市、福井市と水戸市の気温と降水量を提示する。
5分	<p>⑤ 日本海側と太平洋側の気候の違いを自分なりの言葉でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本列島は中央に高い山地があることや季節風の吹き方が夏と冬では違うため、日本海側では冬に降水量が多く、太平洋側では夏に降水量が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太平洋側と日本海側の気候の特色を地形・季節風の影響と関連付けてまとめることができるように、話し合っで見いだしたキーワードを基に、自分なりに表現する活動を取り入れる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">降水量の多い時期に着目し、太平洋側と日本海側の気候の違いについて、地形・季節風の影響と関連付けて説明している。 (I-12) (発言・ノート)</p>
5分	<p>⑥ 本時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の気候は、北海道、南西諸島、太平洋側、日本海側の地域で分けることができる。 	<p>○これまで活用した視点を基に、地域による気候の違いを説明することができるように、白地図に気候を区分する活動を取り入れる。</p>